

## 特別活動部

### 1 研究部研究主題

「希望や目標をもち、多様な人々と協働して、よりよく生きる力を育む特別活動」

### 2 研究協力校

京丹後市立大宮第一小学校（令和2年度～令和4年度）

### 3 研究協力校研究主題

「自他を大切にし よりよい生活や 温かい人間関係を築く特別活動」  
～ 認め合い つながり合い 互いのよさを発揮し合う一っ子～

### 4 研究部の研究内容

令和2年度から、京丹後市立大宮第一小学校を研究協力校とし、研究を進めてきた。

#### (1) 1年次（令和2年度）

ア 支部研究部長会（7月、10月、2月）

イ 内容

(ア) 役員体制、研究主題、活動方針、事業計画

(イ) 研究大会参加の確認

(ウ) 各支部の活動状況交流

(エ) 研究協力校の授業研究会に参加

(オ) 指導主事の指導助言

(カ) 研究協力校1年次取組報告及び活動のまとめ

1年次取組報告

1年次は、0から研究をスタートさせることもあり、校内研修会で教職員学級会を実施し、研究を通して目指す姿や研究主題について話し合い、職員で共有を図りながら決定した。そして、研究体制を整え、「授業プロジェクト」「集団活動プロジェクト」「プラン・環境プロジェクト」を立ち上げた。特に1年次は、学級活動(1)の指導をどのようにしていくかについて研修を重ね、授業の進め方について研究を深めた。

#### (2) 2年次（令和3年度）

ア 支部研究部長会（6月、10月、11月、1月）

イ 内容

(ア) 役員体制、研究主題、活動方針、事業計画

(イ) 研究大会参加の確認

(ウ) 各支部の活動状況交流

(エ) 研究協力校の授業研究会に参加

(オ) 指導主事の指導助言

(カ) 研究協力校2年次取組報告及び活動のまとめ

2年次取組報告

2年次は、研究主題を達成していくために、「特別活動で目指す児童の姿」や「温かい人間関係」について、研修・協議を重ね、共通理解のもと研究が進められるようにした。また、より研究が学校全体のものとなるように、月に2回程度の「特活タイム」を設定し、組織の面でも整備を図った。さらに、1年次に研究を深めた学級活動(1)をもとにして、学級活動(2)(3)の研究を始め、集団での合意形成を

通した自治的な集団づくりと主体的な意思決定を通した自律・自己実現の力をバランスよく育成していくことを目指した。夏季校内研修会では、「学級活動の授業づくり」について、京都府総合教育センターの芦田主任研究主事兼指導主事から指導・助言をいただき、理論について研究を深めた。10月には2年次の研究協議会を開催し、学級活動(1)(2)(3)の授業を3学級で公開した。新型コロナウイルス感染症対策として、各支部長と京丹後支部の部員のみでの参加ではあったが、授業後の研究会では、活発に協議され、2年次の研究の成果と課題を明らかにするとともに、次年度の方向性を確認することができた。

(3) 3年次(令和4年度)

ア 支部研究部長会(5月、7月、9月、11月、1月)

イ 内容

(ア) 役員体制、研究主題、活動方針、事業計画

(イ) 研究大会参加の確認

(ウ) 各支部の活動状況交流

(エ) 研究大会に向けての準備

(オ) 指導主事の指導助言

(カ) 研究協力校3年次取組報告及び活動のまとめ

3年次取組報告

3年次は「誰もができる特別活動」のモデルを作り上げることに挑戦してきた。

研究発表会という区切りがあるものの、「誰もができる持続可能な特別活動」の実現を目指し、研究を進め、今後も児童のよりよく生きる力を育てていきたい。

(キ) 次年度への引継ぎ

5 研究大会の概要

(1) 開催日時 令和4年11月22日(火)10:30~16:45

(2) 会場 京丹後市立大宮第一小学校

(3) 主催 近畿特別活動研究協議会 京都府小学校教育研究会

(4) 後援 京都府教育委員会 京丹後市教育委員会

京丹後市小学校長会 全国特別活動研究会

(5) 研究主題 「希望をもち、多様な人々と協働して、よりよく生きる力を育む特別活動」

(6) 日程

10:00 10:30 11:15 11:25 12:25 13:25 14:45 15:00 16:30 16:45

受付	公開授業	移動	開会行事 全体会	昼食	分科会	移動	記念講演	閉会行事 全体会
----	------	----	-------------	----	-----	----	------	-------------

(7) 内容

ア 学級活動公開授業(10:30~11:15)

学 級	指 導 者	内 容	学 級	指 導 者	内 容
1年3組	高橋 萌	(2)	4年2組	荻野 舞子	(1)
2年1組	森垣さつき	(1)	5年2組	溜池 洸太	(3)
3年1組	長崎 伸也	(3)	6年3組	杉本 貴彦	(1)

イ 開会行事・全体会（11：25～12：25）

(ア) 開会行事

開会挨拶	近畿特別活動研究協議会京都府大会	大会会長	山副 雅彦
来賓祝辞	京都府教育委員会	教育長	前川 明範
	京丹後市教育委員会	教育長	松本 明彦
	全国特別活動研究会	会長	篠遠 信行

来賓紹介

(イ) 全体会

基調提案 近畿特別活動研究協議会京都府大会運営委員会  
 研究部長 河北 格  
 (舞鶴市立志楽小学校)

研究発表 京丹後市立大宮第一小学校  
 研究主任 谷川 直樹

ウ 分科会（13:25～14：45）

分科会	テーマ	分担	学校名	職名	氏名
1	思いを実現し、豊かな学級や学校の生活をつくる学級活動	提案者	城陽市立久世小学校	教諭	相良絵美香
		指導助言者	太子町立斑鳩小学校	校長	八木三佐代
		司会者	太子町立太田小学校	教諭	木村 亮介
		記録者	久御山町立東角小学校	教諭	成清 大輔
		責任者	城陽市立富野小学校	教諭	高山 幸子
2	思いを実現し、豊かな学級や学校の生活をつくる学級活動	提案者	長岡京市立神足小学校	教諭	福井 恭子
		指導助言者	大阪市立中浜小学校	校長	大石 浩之
		司会者	大阪市立西九条小学校	教諭	加藤 敦子
		記録者	長岡京市立長岡第六小学校	教諭	山下こなみ
		責任者	長岡京市立長岡第十小学校	教頭	森 久彰
3	現在の自分を見つめ、自己の成長を考える学級活動	提案者	与謝野町立三河内小学校	教諭	安田 純平
		指導助言者	京都市立岩倉北小学校	校長	三浦 清孝
		司会者	京都市立花園小学校	教諭	日置結香子
		記録者	与謝野町立岩滝小学校	教諭	和田 麻里
		責任者	与謝野町立山田小学校	教諭	片西 健太
4	児童のキャリア形成と自己実現のための特別活動の在り方	提案者	綾部市立豊里小学校	教諭	村尾さつき
		指導助言者	十津川村立十津川第一小学校	校長	丸西 直樹
		司会者	香芝市立二上小学校	教頭	澤田 和智
		記録者	綾部市立中筋小学校	教諭	加藤 祐樹
		責任者	綾部市立吉美小学校	教諭	岩松 恭平
5	自発的、自治的な活動で、学校生活を楽しく豊かにする児童会活動	提案者	舞鶴市立中筋小学校	教諭	堀 優作
		指導助言者	大津市教育センター	若手教員育成指導員	鈴木 靖彦
		司会者	大津市立石山小学校	教諭	山本 一斗
		記録者	舞鶴市立中舞鶴小学校	教諭	田中万里子
		責任者	舞鶴市立吉原小学校	教頭	吉田 英
6	コロナ禍における学校行事の意義～林間学習の実践を通して～	提案者	木津川市立木津川台小学校	教諭	塩崎 達章
		指導助言者	岩出市立山崎小学校	岩出市立中央小学校副校長	藤岡 史典
		司会者	岩出市立中央小学校	主幹教諭	藤村 幸治
		記録者	精華町立東光小学校	教諭	菊谷 大志
		責任者	木津川市立加茂小学校	校長	久保 嘉章

エ 記念講演（15:00～16:30）

演題

「希望や目標をもち、多様な人々と協働してよりよく生きる力を育む特別活動」

文部科学省初等中等教育局

視学官 安部 恭子 様

オ 閉会行事（16:30～16:45）

(ア) 次年度開催地挨拶 大阪市立海老江西小学校 校長 堀尾 浩行

(イ) 閉会挨拶 近畿特別活動研究協議会京都府大会 大会会長 山副 雅彦

## 6 成果と課題

### (1) 成果

#### ア 研究部

(ア) 今年度の研究大会を見据えて、令和2年度から計画的に準備を行うことができた。

(イ) 今回の研究大会は、近畿特別活動研究協議会京都府大会として行った。コロナ禍ではあったが、対面で行うことができ、近畿各地の参加者から感想や意見、指導助言をいただくことができ、各地域の実践を学ぶ機会となった。

(ウ) 近畿小学校学校行事研究協議会にレポート発表者や司会者を派遣し、京都の実践を近畿地方へ発信することができた。また、交流を通して実践を学ぶ機会となった。

(エ) 専門研究員を該当支部から選出し、多くの支部の研修会で講師として招くことにより、研究協力校の研究内容を随時府内全域に広めることができた。

(オ) 支部研究部長会で、各支部の取組の交流ができた。各支部、3～4回の部会を開き、公開授業を通して学ぶ機会を設ける他、教材を一緒に作成し、話合いの進め方を深める支部や、レポートを持ち寄り実践交流している支部があった。

(カ) 府教委、府総合教育センター指導主事による指導・助言により、一層研究を深めることができた。

#### イ 研究大会

(ア) コロナ禍で対策を講じながらの開催ではあったが、近畿各地から約180名の参加を得ることができた。公開授業、実践発表、掲示物等により、3年間の研究の成果を具体的に示すことができた。

(イ) 研究に対する教師の主体性や、児童に付けたい力を意識し、目的を明確にした研究で、現在の学習指導要領に沿った指導方法等参考になるものであった。

(ウ) 研究協力校と研究部との3年間の連携及び取組をまとめて報告することができた。

### (2) 課題

#### ア 研究部

(ア) 支部研究部長が毎年代わるので、研究の継続性が保ちにくい。

(イ) 研究を深めていく意味でも専門研究員を育成していく必要がある。

(ウ) 研究協力校の研究内容を府内に広め、京都府の特別活動を更に発展させていくことが大切である。

#### イ 研究大会

(ア) 教職員の入れ替わりにより、研究の継続、積み上げに苦労した。

(イ) 分科会の研究協議の時間の確保及び進行の工夫等による内容の充実を図る。

### (3) 次年度の研究活動

ア 今年度までの積み上げを大切にしながら、亀岡支部を中心とした研究を進めていく。

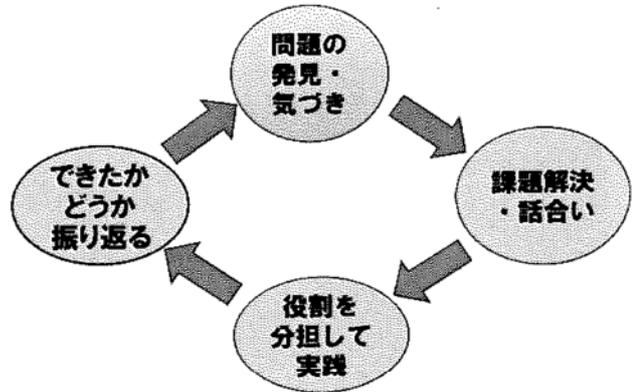
イ 「誰もができる持続可能な特別活動」を意識した研究を進めていく。また、そのことを府内全域で意識して進めていけるよう支部長会や研究会を通して共有していく。

1 授業プロジェクト ... 児童自らが学級・学校生活をより豊かにしていくために学級活動の授業づくりの研究を進める。

学級活動(1) 4つの指導過程を大切にす

○ 授業スタイルの統一

- ・ どの教師も、どの学年・学級でも安心して学級会を進められるようにする。
- ・ 問題発見 課題解決 事後の実践 振り返りの指導過程を大切にす
- ・ 提案理由を明確化し、意識させることを重視する。
- ・ 学級活動に取り組む目的を子どもと共有する。

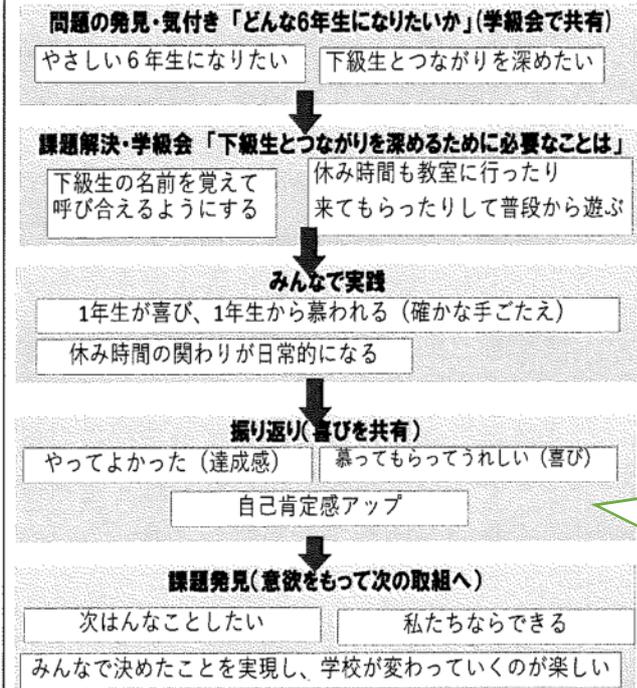


オリエンテーション資料を用いて、学級活動の意義や目的を共有します。



オリエンテーション資料

集団活動と関連付けることで思いを深め実践へつなげる (6年生の実践より)



○ 集団活動の質を高めよう

- ・ 学級活動(1)と異年齢集団活動を関連させて話合うことを通して、目的意識や相手意識を明確にする。
- ・ 学級活動(3)の題材として扱い、目標達成のための意思決定を行います。

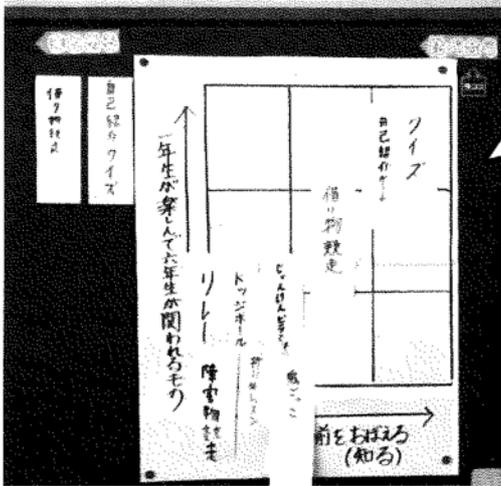
明確な相手意識と目的意識を持ち、実践することで、振り返りが充実します。そのことは、次への活動の意欲の向上や人間関係の深まりにつながります。

○ 合意形成へ向けての技能、見方・考え方を育てる

- ・ 「自分もよくみんなもよい結論」を学級として導いていくためには、合意形成の技能と思考の働かせ方を児童に身に付けさせることが大切である。
- ・ 板書の工夫と思考ツールを用いて意見を整理する。

合意形成のためのスキル

- ①合体（似ているところや同じところを見つける）  
新聞係とクイズ係は一緒にして、新聞でクイズもしたら？
- ②縮小（量を少なくして全部する）  
おにごっことドッジボール、リレーどれも少しずつやろう。
- ③創造（ちがうもの同士をくっつけて、新しい何かを作る）  
ドッジボールとおにごっこで、当ておににしよう。
- ④順番（別の時間や次の機会を確保する）  
今回は鬼ごっこにして、休み時間にドッジボール大会をしよう
- ⑤条件（心配意見を解消するために条件をつける）  
ドッジボールでいいけれど、苦手な人は3回当たるまで、外に出ないというルールにしよう



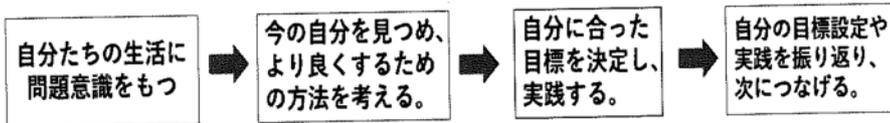
6年生「1年生と仲を深める会をしよう」での実践例  
「1年生と仲を深められる活動」という提案理由を実現するために「1年生が楽しんで6年生と関わられる」と「互いに名前を覚えられる」という2つの視点を条件にあげ、どちらも達成できるものをよりよい意見として選ぶ方法をとった。

思考ツールを活用した板書例

学級活動(2)(3) 課題意識と振り返りを大切にする

○ 子どもの課題意識を高める

- ・ 教師の問題意識を子ども自身の課題意識にすることが大切である。
- ・ 下の図にある学習過程を積み上げて指導していくことが大切である。



2 集団活動プロジェクト ... 温かい人間関係づくりの実現に向け、異年齢集団活動の充実を図る。

○ 児童の主体性を育む

- ・ 児童の発想や思いを生かし、実現することで児童の主体性を育てる。
- ・ 目指す児童の姿に照らし合わせて、子どもの育ちを評価する。



児童会「笑顔の千羽鶴」  
コロナ禍で大きく変わった日常が早く戻るように願いを込めて、全校で折り鶴を折る取組。市役所に寄付し、賛同する市民の方々にも折ってもらった。



主将会「ウォーターサマーフェスティバル」  
感染症拡大の影響で水泳が中止となった年、主将会の児童が「みんなで楽しいことがしたい」と企画し、グループごとに水をかけ合い、楽しむ行事を実施した。

## ○ 日常的な関わりを広げる

- ・ 児童の発想や思いを生かし、実現することで児童の主体性を育てる。
- ・ 目指す児童の姿に照らし合わせて、子どもの育ちを評価する。
- ・ 行事を通して形成されたつながりを日常的な関わりへとつなげていき、温かな人間関係の形成や自己有用感の高まりにつなげていく。

日常的な関わりが増え、「自分たちの学校は自分たちでよりよくなる」という意識が育ってきました。



## 3 プラン・環境プロジェクト... 「目指す児童の姿」に向けて、計画の立案と環境整備について研究を進める。

### ○ 目指す児童の姿を共有する

- ・ 目指す児童の姿をもとに学級活動や年間計画を作成し、学校全体で同じ方向性を持って指導する。
- ・ 「人間関係」「社会参画」「自己実現」の観点で、付けたい力を明確にする。

### 目指す児童の姿を明確にし、年間指導計画に反映する



### ○ 研究の充実に向けて

- ・ 児童アンケートを実施し、児童の変容と研究の方向性を確認する。
- ・ 「特活タイム」(職員研修)実施と特活だよりを発行し、教職員同士の学び合いと研究の共有化を図ることを大切にしたい。

児童アンケートより

アンケート項目	R3 5月	R3 12月	R4 6月
チームの活動は楽しいですか。	90%	92%	95%
あなたのクラスは良さを認め合う雰囲気がありますか。	89%	93%	90%
友達と自分の考えがちがっても自分の意見が言えますか。	69%	71%	77%
あなたのクラスは自分たちで課題を見つけて、解決しようとしていますか。	79%	81%	89%
あなたは学期初めに決めた目標を意識し、達成しようとしていますか。	89%	88%	95%

### 特活だより～私観を学び合おう～ No.7

長かった夏休みがあっという間に過ぎました。授業の研究や、リフレッシュ、充実した夏休みだったことと思います。さて、いよいよ2学期がスタートします。発表に向けて、見直しを持って日々の教育活動ができるよう、学年、ブロック、職員室の皆で協力していきたいです。心身の健康を一番に、2学期も頑張っていきますよ。

**6年1組の実践より**  
5年生の研究発表でされた話し合い活動です。6年2組の授業を受けて、さらに工夫された授業になっています。【決定マップ】や【賛成・心配シール】「意見シート」などの可視化することでとても分かりやすい板書になっています。子ども達の思考を助けるツールを使うことで、より充実した話し合いになります。

### えがお いっぱい

～すぐろくを作ろう!!～  
「目指す児童の姿」を明確にし、年間指導計画に反映する。このこと、自分の意見を受け入れてもらえる安心できる環境でできることが分かります。話し合いをする上でも大切なことだと思います。

**5年2組の実践より**  
運動会で「高学年として自分達がどうだったか、成長と課題を振り返る活動」をしてもらいました。全員が自分の思いをしっかり伝えられたことができていたのですが、担任の目標とこれは「クローズの反応のレベルアップ」です。学級会を全員で作上げるためには、とても大切なことです。

学校全体で研究を積み上げていくことが大切です。

